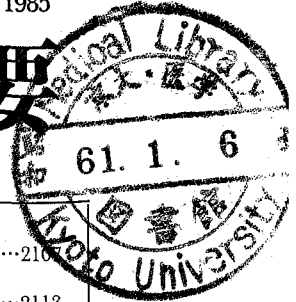


泌尿紀要
Acta Urol. Jpn.

Vol. 31, No. 12 ACTA UROLOGICA JAPONICA December 1985

泌尿器科紀要

第31巻 第12号 1985年12月



泌尿性器悪性腫瘍患者における PPD, PHA および Su-PS 皮内反応について	天野 俊康・ほか	210
泌尿器科領域における血清および尿中 Tissue polypeptide antigen (TPA) の検討	風間 泰蔵・ほか	2113
前立腺癌骨転移の指標としての尿中ハイドロキシプロリンの有用性(1)	黒川 公平・ほか	2119
過伸膀胱の denervation supersensitivity について 一過大反応と結合織の変化との関係を中心として	横山 修・ほか	2127
透視下排尿動態機能検査とそのデータ処理の紹介	佐々木正人・ほか	2135
副甲状腺の内分泌代謝に関する研究 I: cyclic AMP による尿路結石の形成実験	郡 健二郎・ほか	2141
副甲状腺の内分泌代謝に関する研究 II: 副腎皮質刺激ホルモン (ACTH) がカルシウム代謝と副甲状腺機能におよぼす影響	郡 健二郎・ほか	2149
急性前立腺炎および急性副睾丸炎患者における血清中シアル酸の変動について	大川 光央・ほか	2161
ラット腎移植における免疫学的検討 一輸血による移植腎生着延長効果	上田 陽彦	2169
最近1年間における上部尿路結石に対する経皮的破砕摘出治療の成績(経尿道的尿管操作を含む)	川村 寿一・ほか	2183
Kock Continent Ileal Reservoir による尿路変更術の経験	岡田 裕作・ほか	2193
尿管ステントは有効か?	滝 洋二・ほか	2203
進行腎癌に対する組換え型ヒトインターフェロン α の使用経験	井坂 茂夫・ほか	2209
表在性膀胱腫瘍に対する 4'-epi-Adriamycin 膀胱腔内注入療法 (Randomized Study)	津島 知晴・ほか	2215
Congenital Mesoblastic Nephroma に		
類似した成人腎過誤腫の1例	寺井 章人・ほか	2219
腎外傷により発見された腎実質腫瘍の1例	原田 卓・ほか	2225
腎被膜脂肪肉腫	滝川 浩・ほか	2231
腎盂切石術後に腎性高血圧を合併し腎部分切除術にて治癒せしめた1例	小西 平・ほか	2237
気腫性腎盂腎炎の1例	青木 光・ほか	2243
原発性限局性膀胱アミロイドーシスの1例	寺井 章人・ほか	2249
膀胱腫瘍患者にみられたガス嚥疽の1例	孝治・ほか	2255
前立腺平滑筋腫の1例	中本 貴久・ほか	2261
睾丸悪性リンパ腫の2例	本多 正人・ほか	2265
続発性陰茎腫瘍の2例	本多 正人・ほか	2273
女子急性単純性膀胱炎の臨床症状に対する Tiaprofenic acid の効果	千葉 隆一・ほか	2281
頻尿を主とした排尿異常に対する KL007 (塩酸オキシブチニン) の臨床的効果—第II相試験	滝本 至得・ほか	2284
前立腺癌に対する (D-Leu ⁶)-des Gly-NH ₂ ¹⁰ -LH-RH ethylamide (Leuprolide) の臨床効果—とくに少量投与時における血中ホルモンに対する影響	今井 強一・ほか	2302
閉塞性無精子症に対する Alloplastic spermatocele の使用経験	寺田 為義・ほか	2307
泌尿器科紀要第31巻 総目次・物件索引・人名索引 i~xxxxxxv		

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M. D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,
Kyoto University, Kyoto Japan 606
京都大学医学部泌尿器科学教室

禁帯出
到着後1ヶ月間

SOCIETY FOR UROLOGY AND ENGINEERING

New York Medical College の Dr. George R. Nagamatsu を中心に SOCIETY FOR UROLOGY AND ENGINEERING の設立準備がすすめられており、右頁のように第1回の会議が行なわれることになりましたので、ご案内いたします。

Dr. Nagamatsu は御存知のごとく日系二世で、著名な泌尿器科医であります。先生は Washington University の工学部を卒業され、ある会社に勤務されていましたが、その後再び New York Medical College に学び、多くの研讃をつまれ、日系二世としては始めて米国の医科大学（母校の New York Medical College の泌尿器科）の Professor and Chairman になられた方です。その後 Chairman の席を Dr. Addonizio にゆずってからも、Research Professor として頑張っておられます。

Dr. Nagamatsu は長年日本の泌尿器科医のお世話をされ、また泌尿器科学の発展に貢献されました。先生は、自分の経験を生かし、工学と医学、すなわち Engineering と Urology の橋渡しと、日本と米国の橋渡しを、今後の生涯の仕事として情熱をそそいでおられるのであります。

SOCIETY FOR UROLOGY AND ENGINEERING の設立の主旨は以下のごとくです。

電気工学、電子工学、コンピューター技術などの進歩は著しく、医学的応用面でもすばらしい成果があがっています。しかし、医学と工学はお互の分野を知らない、あるいは理解出来ないことから、まだ十分に利用されていないところが多いと思われまます。

今やエンジニアリングの進歩をただちに、泌尿器科学に結びつけ、また泌尿器科学が要求するものを求めてエンジニアリングの応用学が進歩するといった give and take がスムーズに出来る環境が要求されています。

泌尿器疾患の診断・治療に関し、出来るだけ患者に苦痛を与えぬ検査方法の開発や、手術とくに観血的手術をせずに治療する方法の開発など期待される課題は多数あります。そこで、

- 1) 臨床に役立つ技術の研究と発展を目的として、泌尿器科学とエンジニアリングがドッキングした新しい形の研究所 (THE UROLOGY & ENGINEERING INSTITUTE OF THE DEPARTMENT OF UROLOGY OF NEW YORK MEDICAL COLLEGE) をつくる。
- 2) 上記研究所とは独立し、しかし相補的な関連性をもった法人組織 (SOCIETY FOR UROLOGY & ENGINEERING) をつくり、とくに日米両国がお互に協力することで新しい技術の医学的応用を無駆なくスムーズに推進する。
- 3) 研究の成果は年4回の予定で出版するが、両国の技術者と泌尿器科医がともに、お互の分野を容易に理解出来ることを目的として、必要に応じて2ヶ国で表現することを検討する。印刷出版は Cooper Union College の Art School で行なう。

関心のある方々のご参加を期待いたします。

(文責 吉田 修)

ANNOUNCEMENT

First Annual Meeting

SOCIETY FOR UROLOGY AND ENGINEERING

New York Hilton Hotel

New York City

Friday, May 16, 1986

Abstracts of papers for presentation are invited by January 31, 1986

Topics: Technology-oriented basic or clinical studies related to genito-urinary disease.

Please reply to Tokyo liaison office of the Society at:

Dr. George R. Nagamatsu, M.D.

5-18-13, Koishikawa, Bunkyo-ku, Tokyo ☎112

Tel. 03-947-8645

FAX No. 03-944-9055

In addition to papers, current movies, and poster presentation may be submitted.

Note: Membership application forms for the above Society will be mailed upon request to the Tokyo liaison office. This Society (SUE) is the first to align and utilize Urology, Engineering, and Industry resources on a planned structured and global basis for application-oriented research to the problems of urology. Our residents team with engineering fellows at Cooper Union School of Engineering — adding that new dimension to the teaching hands-on experience necessary in the technology world of today.

購読要項 (1983年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料 6,000 円 (送料とも) を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部あて、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

投稿規定 (1983年8月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。
 - (1) 普通論文の長さは、原則として、刷上り本文7頁(400字×28枚程度)図(Fig)10枚、表(Table)5枚までとする。
 - (2) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書、当用漢字、現代かなづかい、平がなとし、清書する。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプし、年号は西暦とする。
 - (i) 原稿の表紙に標題、所属機関名、著者名の順に和文で併記する。下段に筆頭著者名(山田：または山田・ほか：)と、2語(例：前立腺がん・PSA)からなる running title を付す。
 - (ii) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、5語(英文)以内の Keywords、抄録本文の順にダブルスペースでタイプし、その和訳をつける。
 - (iii) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、Key words (和文に準ず)、running title (和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、所属機関名、著者名、抄録の順に記した和文抄録を付す。
 - (4) 数字はすべて算用数字を使用し、単位 m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μ g, %, °C, pH などとする。
 - (5) 図、表、写真などはすべて別紙とし、写真はトリミングする。説明文は一括して記載し和文、英文を問わず Table 1., Fig. 2. などとする。英文が望ましい。原稿右欄外に挿入すべき位置を明示する。図・表は誤りのないことを確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい。様式については本誌の図・表を参照する。
- (6) 引用文献は必要最少限にとどめ、引用個所を本文中に入れる。その数は30までが望ましい。和文は楷書で、欧文はタイプする。
(例：山田^{1,3,7)}、田中ら^{1,3,10)}によると)
雑誌の場合—著者名(全員)：題名、雑誌名
巻：最初頁～最終頁、発行年
単行本の場合—著者名(全員)：題名、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年
- (7) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残しオリジナルを書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。
- (8) 投稿原稿は編集委員会においてその採否を決定し、それに従って編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。
- (9) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部がおこなう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。

3. 掲載

- (1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。
- (2) 紙代、印刷費および最初1頁の組版費は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後におこなう。論文の長さが超過した場合、超過料を別途に申し受ける。
- (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療器具の使用などにかんする研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。

4. 別刷

実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

編集委員： 石神 襄次 前川 正信 宮崎 重 新谷 浩
 園田 孝夫 友吉 唯夫 吉田 修 (主 幹)

泌尿器科紀要 第31巻 第12号 1985年12月25日 印刷 1985年11月30日 発行
発行 吉田 修 顧問 加藤 篤 二 発行所 泌尿器科紀要刊行会
〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京都大学医学部泌尿器科学教室内 電話(075)751-3327(直通)
印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入

訂正とお詫び

泌尿器科紀要31巻11号

- 1) 1961頁 Fig. 6 中の文字“オープンサークル”は不要です.
- 2) 2004頁 Fig. 3 (写真) の方向が 90° ずれています.

訂正してお詫びいたします.

編集部